プリンセス 小公女セーラ

第20話

『謎の特別室生徒』

AR台本

企画
制作　日本アニメーション株式会社

プリンセス
小公女セーラ

第二十話『謎の特別室生徒』

登場人物

セーラ……島本須美
ミンチン……中西妙子
アメリアア……梨羽由記子
アーメンガード……八尾板万紀
ベッキー……鈴木三枝
ロッティ……渡辺生子
ピーター……坂本千夏
ラビニア……山田栄子

ジェシー……………飯塚はるみ
ガートルード……………佐々木るん
モリー……………向殿あさみ
ジェームス……………郷里大輔
ジェニファ……………
クリステル……………
花屋のおばさん……………
ウイリー……………
ジョージ……………
ラビニアの父……………
ラビニアの母……………

カメラ	画面		音声
1	ラビニアの部屋、窓越し ラビニア数歩いって、ベッキー より靴を受け取る		
2	ラビニア（普段着）、不服そう に受け取って、靴を調べる ベッキーをにらみつける なげつける		ラビニア「なによ、この磨き方」
3	ベッキー、驚きのけぞる、靴が 胸にあたる		
5	ベッキーなめて、靴が床に落ち る		
4	ハッとするアーメンガード		
6	下から見あげる、みつめてふる えるベッキー、泣き顔に（こら えている） 肩をすぼめて、ふるえる		

7	ガートルード、ジェシー、顔見合わせて		
8	フンと胸をそらすラビニア 呆然とみつめるアーメンガード ベッキー泣き顔（こらえている） ラビニア歩いて、左へFr・out		
9	アーメンガード、ガートルード ジェシー ラビニア数歩、ベッキーより離れる、止まる		ラビニア「一体、誰れが磨いたのよ」
10	ベッキー、ハッと顔あげて、おどおどしながら ベッキー、かがむ（拾う）		ベッキー「あのォ……私が…… 丁寧にお磨きしたんでございます」
11	ローアングル ベッキー、靴を拾いながら ラビニア、威丈高に横向いたまま		ラビニア「気に入らないわね、それで私が外出 出来ると思ってんの？」
12	ラビニア、ふりむいてにやり		ラビニア「誰か他に靴ぐらい磨ける人がいるで

			しょ」
13	靴を両手でかかえて、体を起しかけるベッキー、体を起す		ベッキー「え……あの——」
	A・C		
14	ベッキー、泣き顔で手前に		ラビニア「早く持って行きなさいよ」 ベッキー「は、はい、ただいま……」
15	ベッキー、部屋を出ていく ドアを閉めながら礼をする ベッキー泣き顔（こらえている）		
16	見送るラビニア 髪をパラッと振りあげて、ツンとして手前に　Fr・out 奥にアーメンガード、心配そうに右をみる		S・E（バタン） ラビニア「フフ……これでセーラが来る筈よ」
17	地下のアイロン作業場 アイロンをかけるセーラの手元		
18	アイロンをかけるセーラ、汗をぬぐう		

	19A	19B	19C	20
一枚終ってたたみ、重ねる	次のにとりかかるセーラ 底をしらべる 火桶の上にアイロンを、もってくる	ふたを開ける——火をおとし 火をすくって、アイロンに入れる スプーンをおき、ふたをしめる	手前の台におき、隣りのアイロンをもち、確かめる 元にもどる	セーラ、戻って再びアイロンをかける。ベッキー入ってくる セーラ、気づくが仕事をつづける ベッキー、整理棚によりかかるようにして泣く、セーラ気づく ふりむくセーラ

21	ベッキー、耐えられなくて声になる（泣き）（靴をかかえている）		
22	セーラ、ハッとして		セーラ　「ベッキー」
23	セーラ、アイロンを置き急いでベッキーに近寄る		セーラ　「また、なにかあったのね」
24	ベッキー、泣き顔でうなづく セーラ、そっとベッキーから、靴をとり、セーラ奥へFr・out		ベッキー「ラビニアさんが、……私、丁寧に磨いたんですけど、気に入らないんです」 セーラ「まあ……」 セーラ「いいわ……私が届けてあげる」 ベッキー「え……」
25	顔をあげるベッキー 向き直って、急いで首をふる		ベッキー「そんな……」 ベッキー「いけません、お嬢様、 お嬢様がいらしたら、ラビニアさんの思う通りになるだけです。私、知ってるんです、ラビニアさんはなにかと、お嬢様にいじわるしようと待っているんですから」
26	セーラ、靴ふきで拭い直している（丁寧にふく） ベッキー、セーラのそばへ		

	セーラ、ふきながら	セーラ　「私も、知っているわ」
27	ベッキー、ハッとする 立ちあがるセーラ	セーラ　「でも、心配しないでベッキー」
28	セーラ、向き直る 視線はずして 顔もどす	セーラ　「私、そういう事に少しづつ馴れようとしているの……いいえ、馴れていかなければ、ここにいる事は出来ないんだって、決心したのよ」
29	ベッキー	ベッキー「お嬢様……」
30	セーラ、明るく 戸口の方へ見送るベッキー 戸口でふりむく	セーラ　「大丈夫よ、ベッキー」 セーラ（明るく）「じゃ、アイロンかけの方、お願いね」
31	ベッキー	ベッキー「は、はい」
32	笑顔残して出ていくセーラ ドアが閉る	
33	心配のベッキー	

No.			
34	地下から一階への階段を昇る セーラ（靴をかかえている）		
35	階段を昇るセーラ、回って さらに階段を昇る、胸元、靴を いだくのが見える		
36	←ＰＡＮ　一階ホール 二階への階段を昇るセーラ		
37	一階より二階へ← 中段で		
38	止まるセーラ ためらうセーラ		
39	ラビニアの部屋 （外出着）で身づくろうラビニ ア（リボンなしにする） ↑ＰＡＮ　ガートルード		
40	アーメンガード、近づいて		アーメンガード「ね、ラビニア、外出するって 一体どこへ行くの」

	身づくろいのラビニア ベッドの方へラビニア		ラビニア「（微笑）ヒミツよ」 アーメンガード「ヒミツって？……」
41	ベッドの上の帽子の箱より、帽 子をとりだして（あるいは飾り物 の類をとりだす）		
42	ラビニア、　帽子を頭にのせて 体を起す 鏡に顔近づけて、身づくろい ラビニア、ジェシー、ガートル ード、三人含み笑い アーメンガード　→右へFr・out		ラビニア「いまに、あんたたちが吃驚するよう なことが起るわ」 ジェシー「それまではヒミツよ」 ガートルード「ねえ……」 （ドアの音） アーメンガード「は、はい……」
43	アーメンガード、ドアへ急ぐ in 開ける		
44	驚き 奥のラビニア、ガートルード、 ジェシー、ふりむく		アーメンガード「……セーラ」
45	セーラ、アーメンガードに ラビニア、手が乱暴にアーメン		セーラ　「靴を届けに来たの」

	ガードを押しのける アーメンガード、ドアごと右へ Fr・out		
46	一歩くる、ラビニア止まる 顔見合わすガートルート、ジェシー、ラビニア前へ		
47	セーラの胸元の靴をひったくる あっと、びっくりするセーラ		
48	ラビニア、靴をたしかめてから		ラビニア「あなたが磨き直したのね」
49	セーラ、平静にうなづき		セーラ　「ええ、ベッキーが他の仕事で忙しいので」
50	ラビニア、見下した微笑が浮び 奥へ		ラビニア「そう、 私の靴を昔の代表生徒のあんたがね… だったら許してあげるわ」
	A・C		
51	ラビニア、手前に来ながら ラビニア、悪企みの微笑をたたえて、おもむろに歩く、手前に止まる、手を離す、靴落ちる		

52	靴が落ちる		
53	ふりむく（ゆっくり）ラビニア		ラビニア「履かせて頂戴」
54	一瞬見返す、セーラ		
55	ジェシーとガートルード顔見合わす アーメンガードのりだして ラビニア、アーメンガードに		アーメンガード「ラ、ラビニア……」 ラビニア「あなたは口出さないの」
56	アーメンガード、うちふちえて 口とじる		
57	ラビニア、アーメンガードより カメラ正面に ふりむく、勝ち誇って		ラビニア「どうしたの」
58	うつむくセーラ		
59	ラビニア、皮肉 語気荒く		ラビニア「あなたは、ベッキーと同じで私たちの為に働くメイドの筈でしょ。さ、履かせなさいよ」

60	セーラ、ジッと見返す		
61	中に入ってくるセーラ（ゆっくり歩く）、ラビニアの前でとまり顔を見合せる二人		
62	かがむセーラ ニヤリとするラビニア 見下すラビニア スカートをつまみあげる、得意気に		
63	足先をセーラの顔前に出す		
64	得意気に見下すラビニア		
65	靴をはかせるセーラ、脱がせて新しいのをつける		
66	見つめる三人		
67	見下すラビニア 靴をはかせるセーラ　T・B		

	ラビニア、ガードルード、ジェシーと顔をあわせて、ニヤニヤ		
68	アメリア（外出着）通りかかる とまって、左右みて アーメンガード救われたように みる		アメリア「まあ、皆さん、なにをしてるんですの?」
69	驚きのラビニア、顔をぱっとあげる、声つまる		ラビニア「あ、うっ」
70	さっと足を下すラビニア スカートのスソがセーラの手にかかる、まくれてる感じで終る		
71	スソを下しつつ、必死に平静を装うラビニア		ラビニア「……アメリア先生」
72	アメリア左右みて入ってくる 不信そうに アーメンガード見守る、アメリアをみる		

73	ラビニア戸迷い、セーラをちょっとみて、セーラをなめて PAN ラビニアへ	ラビニア「……いま、セーラが私の新しい靴を見たいというので、見せてあげていたんです」
74	「そーう」といった、顔をあげるアメリア先生	
75	ラビニア、右をみる	ラビニア「ねえ〜、みんな」
76	アメリア、左をみる	
77	ぎこちなく、ラビニアにうなづくガートルードとジェシー 正面をみて、ニコッ	
78	顔もどすアメリア、まわりみて アーメンガード（呆然） セーラみて、忙しいのに困った子ってな感じでみて アーメンガード何か言いたそう	アメリア「まあまあ……お出掛前だというのに」
79	ラビニア、可愛いく肩をすぼめて、ニコッ	

80	アメリア、アーメンガードより顔もどす、優しく戸口にもどるアメリア		アメリア「さ、お迎えに行く時間ですよ、ラビニア、早くしなさい……」
81	ラビニア、下にいるセーラに冷笑をあびせて、手前に		ラビニア「は、はい、アメリア先生」
82	部屋を出ていくラビニア、つづくガートルード、ジェシー冷笑を残して（笑い声）		
83	ガートルード、ジェシーFr・out アーメンガード見送って、セーラの方へ		
84	アーメンガード、悲しく見下す		
85	しゃがんだままのセーラ、フカン		
86	学院表、外出姿のアメリアとラビニア楽しげに出てくる 手前馬車		

87	のりこむ、馬車スタート		
88	地下のアイロン作業場、一枚をとって、扉の開く音 ふりむくベッキー		ベッキー「あ……お嬢様」
89	セーラしめて、ふりむく 手前に（明るい顔）		セーラ「（微笑）届けて来たわ」
90	inするベッキー、セーラ始終明るい顔		ベッキー「あのオ……ラビニアさんがなにか、お嬢様にいじわるでも……」 セーラ「安心してベッキー」
91	ベッキー、怪訝に体を起す		
92	セーラ、明るく 右、手前歩くセーラ セーラ（セーラ、真面目な表情にもどる）Fr・out		セーラ「いじわるって、本当はしてるその人決していい気持ちじゃないのよ」 ベッキー「え……」
93	アイロン台のかけ終った衣類のところへ、マジな顔 衣類に手を押す		セーラ「ラビニアもきっといつか、その事に気がつく筈よ」

94	95	96	97	98	99	100	101
衣類をもちあげる手がふるえている	整理棚に向って、セーラすでに数量ある服の上に重ねると、そのままの姿勢で止まる多少肩がふるえる	見つめるベッキー 数歩、手前に	ドアをあけてモリー入ってくる	ふりむくセーラ、ベッキー遅れて	モリー	驚くセーラ「！」 ベッキー（？）	
		ベッキー「お嬢様……」	モリー「ちょっと、	お前たちに急な仕事が出来たんだよ」 セーラ「は、はい」	モリー「お前さんが前にいた特別寄宿生室を使うことになったからね」	セーラ「え……」	モリー「院長先生が至急掃除をしておくよう

	モリー　Fr・out　二人顔見合す		にって。部屋は開けといたから、急いでおくれ」
102	二階から三階へ至る階段、シーザー in　階段を昇る		
103	シーザー昇る、セーラ、モヴ、バケツをもって in つづいてベッキー、階段を昇っていく		
104	昇ってくるセーラ、ベッキーその下、ラビニアの部屋より顔を出す、ジェシーとガートルード		
105	顔、見合わすジェシー、ガートルード		
106	同、3階の特別寄宿生の部屋（ガランとしている）シーザーを先頭に入ってくるセーラ、ベッキー、セーラ見回す		

107	寝室のドア 見回しながら奥へ セーラ in みる		ベッキー「なんてことでしょう、以前お嬢様が 特別寄宿生としてお使いになってたお 部屋を、 今度はお嬢様がお掃除しなきゃならな いなんて……」
108	窓辺より、ロングへPAN→ セーラ in ふりむく		セーラ　「ベッキー」
109	ベッキーふりむく 泣きベソで首をふる		ベッキー「私、お嬢様の今のお気持ちを思うと 悲しくて」
110	セーラ 宙に目を向け バケツを置きながら、逆方向へ Fr・out		セーラ　「いいのよ、ベッキー、 私、気にかけてはいないわ。 さ、始めましょう」
111	グスンとあって、バケツを置く		ベッキー「はい、お嬢様」
112	仕事にかかるセーラ、ベッキー シーザー手前向いて啼く ネコ手前に啼きながら		
113	ネコ（シーザー）戸口の柱に、		

	気持ち良さそうに体をこすりつける 廊下、階段の中段位からみているジェニファ、リンダ、クリスタル、パッと、とってかえす (下りる)↙		
114	3階より2階へ駆け下りる ジェニファ、リンダ、クリスタルの三人、スソをもって下りる		
115	ロッティの部屋 前で心配そうに待ち受ける、ロッティ、アーメンガード ジェニファ先頭にクリスタル、リンダ、二人の所へ駆けていく		
116	駆けつけてくるジェニファ		ジェニファ「ねね、矢っ張り、特別寄宿生が来るらしいわよ」
117	一同、顔つきあわせて		クリスタル「いま、セーラたちがあの部屋を掃除してるわ」

118	アーメンガード、ロッティのりだして		アーメンガード「それで、ラビニアが代表生徒として迎えに行ったの？」
119			ジェニファ「決ってるわよ」
120	ジェニファのりだして ロッティ、気づいて 左をみる一同		ジェニファ「だけどこんな大げさな事するなんて、今度はどんなお金持ちの子が来るのかしら」 ロッティ「シー」
121	ミンチン、裾をつまんで気ぜわしく、3階へ上って行く		
122	一同、見守る、やっぱりといった感じで、顔見わせる一同 ロッティ手前に（眼をかがやかせて）		
123	同、3階、特別寄宿生の部屋 セーラ、ベッキー掃除 ミンチンあわただしく入ってくる、ベッキーみてセーラに		ミンチン「セーラ」

	セーラふりむく ミンチン、ベッキーをみる		セーラ　「はい、院長先生」 ミンチン「ここは、ベッキーにやらせればよろしい」
124	ミンチン、顔もどして 言い終らぬうちにもどりかける		ミンチン「間もなく大事なお客様が見えます。市場に行って花を求めてくるように」
125	ミンチン Fr・out もどってくる in ミンチン Fr・out セーラ、カメラ正面みる		セーラ　「はい院長先生」 ミンチン「あ……それから、モリーに聞いて、特別料理の材料も忘れずに、判りましたね」 セーラ　「はい、院長先生」
126	啞然と見返すベッキー		
127	同、地下の台所 ジェームスの手、書きつけを出す、受けとるセーラの手 奥のカマドのナベ沸く		
128	書きつけをみるセーラ 顔あげて、セーラ		ジェームス「必要な野菜はそれだけだ」 セーラ　「はい、ジェームスさん」

129	奥のカマドにナベが沸騰している ジェームス、暖炉の方にもどりつつ		ジェームス「それから、ローストビーフ用の肉は、院長先生から特別に張りこむように言われてるからな。上肉を探して来るんだぞ」
130	ドアあけて、モリーin モリー　Fr・out		セーラ「はい、ジェームスさん」 モリー「ジェームス、荷物が着いたよ。手をかしておくれ」
131	ジェームス、暖炉の湯わかしよりもどりつつ セーラの後まわって　Fr・out 見送って、セーラ		ジェームス「やれやれ、また大荷物かい」
132	同表、籠を手にして出てくる セーラin　階段の方へ		
133	とまってみる、家具を山積みした大型馬車が止まっている ジェームスとモリーが、それぞれ、椅子や敷物を玄関口に運んでいる		

134	駆者が荷物を下す 受け取るモリー		
135	見つめていたセーラ、地上への 階段を昇ってくる		
136	昇ってくる、ジェームスの足が in		
137	馬車の後部、きしみ入れる 来てとまる、馬車を見上げる (荷物いっぱい) 顔もどす、歩く(足速に) 馬車が切れる、髪が風にファー ッとそよいで(O・Lピンク)		セーラⓂ「どんな生徒が来るのかしら…… いい人だと嬉しいのだけど」

前半・おわり

141	↓PAN・DOWN コベントガーデン市場 買出し人達の退いた時刻		
142	セーラの足元　FOLLOW↙		
143	探しながら　←FOLLOW 密着マルチ		
144	店の主人、ワインを飲み話しに 夢中、その向うセーラ通り過ぎ る、スライドin〜out		
145	アーケード内、探しながら手前 に来るセーラ　BG人物↓引き		
146	セーラ、通りすぎると、口笛を 吹きながら掃除している、ピー ターFr・in　Fr・out（野菜のく ずをはき集めているのです） 扉の向うに顔を出すセーラ（戻 ってくる）見つけて		セーラ　「ピーター」

147	掃いていたピーター振り返る ほうきを放り出して手前に来な がら		ピーター「やあ、お嬢さん」
148	セーラ、一、二歩行く 手前に駆け寄るピーター、帽子 をとって、セーラのカゴをみて もどす		ピーター「そろそろ来る時間だと思ってたんです。今日の買物は?」
149	ピーターなめ、セーラ		セーラ「それが……特別のお客様が見えるとかで、お花と野菜と、ローストビーフ用のお肉を買わなければならないのよ」
150	ピーター、帽子をかぶり直して		ピーター「よしきた、じゃ……まず、花屋のおばさんから頼んでみますよ」
151	花屋のおばさん、涙をためて グズグズ　↑PAN・UP パチンと茎を切るハサミ		おばさん「(グスン、グスン)そうだったのかい」
152	グスンと大きくやって 大きくうなづく、2回位 ピーター		

153	おばさん見上げて おばさん、エプロンをもって	おばさん「あんたの代りに大金持ちの娘さんが 来るって訳かい」
154	エプロンを眼にあてて、グスン またハサミを入れる、花を切り 落す	おばさん「運命なんて残酷なもんだねえ グスン」
155	ピーター手前に	ピーター「あぁー、俺話を聞いて、 口惜しくて、口惜しくて」
156	ピーター、おばさんの隣りに腰 かける、おばさんうなづく	
157	セーラ、困惑してのりだす	セーラ「(困惑)ピーター、もういいのよ、 その事は……」
158	ピーター、セーラをみる 思い出したように、両手を拡げ て、両手につかみあげる花束 手前に置いては、またフレーム 外より花束をつまみあげる	ピーター「ええ…… だからさ……おばさん、これからも、 お嬢さんのために、 力になって欲しいんだ」
159	あきれてみつめるセーラ	

160	おばさん涙ぐんでいる、ヒザの上に花沢山、セーラみて おばさん立ちあがる 腰かけはねる、ピーター		おばさん「わかってるとも、ピーター……セーラさん、グスン、私は……」
161	ピーター倒れる		ピーター「イテッ」
162	おばさん、セーラの肩に手を置く、セーラ奥の下をみている 肩をたたいて おばさん、→右へFr・out ピーター、尻をかかえて起きあがる、イテテ ピーター照れ笑いしながらみる		おばさん「プリンセス様みたいだった、あんたの姿が今でも忘れられないんだよ……さ、大サービスしてあげるよ」 セーラ「ありがとう、おばさん」
163	あれこれ集める、おばさん大きな尻が動く		
164	同、野菜売りの店の前 主人の手、ジャガイモ、玉ネギを置く　↑PAN 花束をかかえるピーター 明るく見守るセーラ、手前に籠		ウイリー「ええと……ジャガイモと玉ネギと…

165	野菜売りの主人ホースラディッシュを籠に入れる 籠をもって、手前に差し出す	……なんだ……あ……ローストビーフ用のホースラディッシュと、さ、
166	明るく叩頭すセーラ セーラ、左へFr・out 帽子をちょいとあげて、にこやかに見送る主人「あ……」と気づいて	大負けに負けといたよ」 セーラ「ありがとう御座います」 ウイリー「イヤイヤ、またおいで」
167	野菜売りの主人、カウンターをはねて、手前に 野菜の荷をもって入る男をおしのけて	ウイリー「それから、ピーター」
168	立ち止まって、ふりむくピーター、セーラ	
169	倒れる荷をもつ男、主人大声で	ウイリー「肉を仕入れるならリーデンホール市場のジョージの店へ行くといいぞ。俺からだって云やあ、サービスする筈だ

			からな」
170	ピーター手をあげて		ピーター「有難う、おじさん」
171	リーデンホールの肉屋街 PAN→　セーラとピーターが いる		
172	肉を引きよせて真剣なカオ 上質の部分みて、手前ニヤリ 手際良く切りとる、真剣 （包丁みがくのがあって）		
173	セーラ（花束をかかえている） ピーター（籠をもつ）顔見合せ て		
174	台の上にドスンとのせて、半分 にする、それを、ハカリの上に ドスンと荒っぽく、チラッとみ て、再び肉を切り、上にはねあ げる		ジョージ「ン、ピッタシ」

175	あっとみる、二人		
176	さっと台の上にハカリの肉切れを置くと（すでに包み紙は下に置いてある）落ちてくるもう一つの肉切れ 手際よく紙に包みこむ		
177	ハスにかまえた主人、さっともちあげて、籠の中に投げこむ		ジョージ「さ、大サービスだぞ。ウイリーの奴によろしくな」
178	野菜の上に肉の包み、重みで一気に腕が下がる、ピーター手前によろめく		ピーター「ええ、有難う、ご主人……」
179	イヤーッとパイプの煙 肉屋の主人ニヤリ		ジョージ「いいってことよ……！」
180	ロンドンの屋根……PAN・D 学校前の広場の道を行くセーラとピーターが行く		
181	公園に入ってくる二人		ピーター「しかし……特別寄宿生室をお嬢さん

	ピーター前に来て背を見せる		に掃除させるなんて……ミンチン先生 もひどすぎますよ……」
182	セーラ、淋しく笑って 手前に歩くセーラ　←PAN 駆け寄るピーター		セーラ「ピーター、私は、別になんとも思っ ていないの……」 セーラ「だって……それは私の仕事なんです もの……」 ピーター「お嬢さん……」
183	パッと、振りむくセーラ		セーラ「じゃ、ここで」
184	ピーター、一寸と来てとまる セーラ、籠に手を入れる ピーター籠を渡す、持ち直した りして（見つめているピーター）		セーラ「有難う、ピーター」
185	てれるピーター、勇気づける うなづくセーラ、手前　Fr・out 見送るピーター		ピーター「では、頑張って下さいね」
186	奥へ歩くセーラ（重そうに） 奥に広場の入口		

187	心配そうに見送るピーター もどる、とまってふりむく		
188	花束と籠をもったセーラ、道を 横切る、スライド←		
189	セーラ来て 右へ曲り　?!となる		
190	?!　見つめながらあるく FOLLOW（ゆっくり）		
191	ミンチン女学院の前に横づけさ れる馬車、止まる T・U（ゆっくりカット一杯）		
192	歩いてくるセーラ、とまる		
193	馬車の扉が開き、帽子の箱をか かえて、降りるアメリア つづいて、いかにも成金風のア メリカ紳士		

No.	画面		台詞
194	派手な粧いの夫人 つづいて、着飾ったラビニア		
195	愕然と見るセーラ、やや思い当る		セーラ「……ラビニアが……」 生徒一同の歓声「〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
196	同、2階、出窓に生徒達 ジェニファ、リンダ、クリスタル、アーメンガード、ロッティ他、室内へ、ラビニア得意気に in		〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
197	ジェニファ、リンダ、クリスタル		ジェニファ「見てラビニアの服」 リンダ「凄い、綺麗だわね、 素適〜、ねえねえ……びっくりさせる ってあの事かしら……etc」
198	カメラ、フカン　ゆっくりラビニア、階段を登る		一同「AD処理」
199	ラビニア、歩く（階段を昇っていく感じ）Fr・out　奥にセーラ		
200	セーラの動揺		

201	ロッティ、アーメンガード顔、見合せる	歓声、ガヤ
202	同、地下の台所 ジェームスの手、カゴに置いたまま、紙包みを開ける 肉をとりあげる	
203	ジェームス、臭いをかぐ ほっとセーラ、ベッキー、顔見合せる	ジェームス「ふうむ、こいつは今までここじゃ買った事のねえ程いい肉だぜ」
204	モリー、ドアを開けて入ってくるなり、手前に	モリー「ジェームス、ラビニアさんのご両親がお着きだよ」
205	モリー、ジェームスのところへ ジェームス、驚き	モリー「特別料理にかかっておくれ！」 ジェームス「じゃ、腕によりかけてな……」
206	ブ然としたベッキー、カメラ正面をパッとみる（セーラをみる）	
207	ハッとしているセーラ PAN↖	モリー「だけど、大変だねえ、これでまた、院長先生、ラビニアさんへの扱いが、

	ジェームス、モリー		ガラリ変わるだろうからね」
208	ベッキー、セーラに顔もどすと セーラみる		ジェームス(off)「ああ……」 モリー(off)「これで材料は全部かい」 ジェームス(off)「あ……そうだ」 モリー(off)「あ、セーラ、
209	ジェームス、左へFr・out		応接室にお茶を運んでおくれ」
210	セーラ、顔もどす ベッキーみる右上		セーラ「はい、モリーさん」 モリー「それからベッキー」
211	モリー、左にFr・out		モリー「この花を特別寄宿生室に飾るんだよ」
212	ベッキー、セーラをみる		ベッキー「は、はい、ただいま……」
213	セーラ、緊張 T・U		
214	同、一階の廊下 応接室の前に群がる女生徒達 ジェシー、ガートルード、ロッティ、アーメンガード、リンダ、クリスタル、ジェニファ等		

215	地下より、お盆にのせたお茶の セットをもって上って来て止る セーラ		
216	アーメンガード、ロッティ気づ いて、右方向手前に		
217	来るセーラ、ロッティ、アーメ ンガード、セーラを囲むように セーラ、アーメンガード視線に ロッティを見てから正面を見る セーラ		ロッティ「セーラ、ママ……」 アーメンガード「ラ、ラビニアが……」 セーラ「え……、ええ！ 知っているわ」
218	←PAN 応接室、一同 母親、派手な衣裳、父親、成金 風だが、眼光するどく		母親「ホホホ……そうなんざますの、院長 先生、なにしろ主人の油田が大当りし てからってもの、大統領のパーティに までお呼ばれするようになりましたで、 ございましょ、もう体がいくつあって も足りないくらい……ホホ……」
219	母親 口に手をあてて笑う、ダイヤの 指輪が光る		
220	思わず乗りだすアメリア		アメリア「まあ……大統領のパーティに……」

	驚きのミンチン、ヒジで制して	ミンチン「素晴らしい事でございますわ。そのような立派な方が後援者になって下されば、この学校としても、どれ程心強いか…」
221	父はついている 父親笑い 父親、ラビニアをみて顔もどす 平静のカオ	父　親「は、は、は、それでまあ、以前から娘が希望しておった通り、特別室に移らせてやりたいと」
222	ミンチン、体を引く ゆっくり、二人同時にうなづく	ミンチン「お手紙で承知致しておりますわ」
223	父親、堂々たる感じ、微笑	
224	ドアの音、ミンチンみて ドアが開き、セーラが入ってくる、しめる	ミンチン「お部屋も御希望通り整えておきました」 ミンチン「お入り」
225	しめて、体を向き直した時 眼があう	
226	得意気に見返すラビニア	

227	セーラ見たが、何事もなく紅茶をテーブルに運ぶ ←PAN テーブルに置いて、客に配る		
228	冷笑してみつめるラビニア		
229	紅茶を配るセーラ		
230	ミンチンの所へ紅茶を置く セーラ、ミンチンをみる 盆をとりあげながら ふりむく、セーラ		ミンチン「セーラ……そのラビニアさんのお洋服を特別寄宿生室にお運びしなさい」 セーラ「はい先生」
231	セーラ、母親の傍を通り、ソファに帽子や洋服の箱をとりあげる		母親「ま、とにかく、この子と来たら、次から次に、 まるでプリンセスみたいに、買物をさせせるんでございましてよ、
232	ミンチン、満足そうにラビニアをみる		
233	ラビニア、照れ笑いをうかべて ちらっと、セーラの方をみる		

234	山のような箱を、なんとかかかえあげる		呆れてしまいましたわ……ホホホ……」
235	一階、応接室、ドア前 女生徒一同、様子をうかがう ドア開いて、一斉に飛びのく ドアより、セーラ後向きで出てくる、箱をいっぱいもって顔はみせない、しめる 手前に運んでくる		
236	階段を昇っていく、箱をかかえたセーラ		
237	ジェシー、ガートルード、手前		「すごいわね……etc、（囁き）」
238	階段を昇るセーラFOLLOW 箱が動いて顔が見える		
239	セーラの顔、瞳が動く FOLLOW		
240	同、特別寄宿生室		

No.	ト書き	台詞
	花瓶に花を差しこむと束になってダランと、うまくおさまらない	ベッキー（アドリブ）「あ……あ〜あ…… もう〜、（AD）」
241	ベッキー、苛立つ（明るく） ソファ等、すべて揃っている セーラ、箱をかかえて入ってくる	ベッキー「あ、お嬢様、私、うまくいかなくて ……」
242	セーラ、ソファに箱を置く	セーラ　「手伝うわ、ベッキー」
243	ベッキー、ドスンと椅子にアグラをかいてすわる セーラ来て、花をいけはじめる	ベッキー「お嬢様……こんな事云ってはいけないのかも知れませんけど……」
244	花をいけながら、セーラ、チラリとみるだけ	セーラ　「……ん……」
245	ベッキー	ベッキー「私、口惜しいんです、お嬢様がよりによってあのラビニアさんのために働かなきゃならないなんて……」
246	花をいけながら、セーラ	セーラ　「（微笑）ベッキー、もうその事は云

	ベッキーをみない		わない約束よ。さ、向うの部屋にも飾らなくては……」
247	ガクッと足を下して、立ちあがる		ベッキー「は、はい、お嬢様」
248	一階、応接間 ドアの前から散る生徒達 ドアが開いて、父親出てくる 父親のあとから、ミンチン続き ミンチン先に立つ		父親「はっはっはっ……では娘の部屋を拝見致しますかな」 ミンチン「どうぞ、こちらへ」
249	つづいて出てくる母親、ラビニア、アメリア アメリア、しめながら行く		
250	廊下、角より顔を出すジェシー ガートルード、他		
251	アメリアが昇っていく つづくシーザー		
252	応接室、ドア前		

	253	254	255	256	257	258
スカートのスソもちあげて、つづく生徒一同、ガートルード先頭	シーザー、階段を昇る	ガートルード先頭に階段を昇る生徒一同、一度とまってまた、どど〜〜〜	新装なった部屋、頭止 T・U（ゆっくりと）	特別寄宿生室、入ってくる（扉を開けて）、父親、お〜っと眼を見張る	窓辺	→PAN　暖炉側
			ベッキー㋔「やはりお嬢様にいけてもらうと、上手にいきますわ」 セーラ㋔「フフフ……そんな……ベッキーだって上手よ……あ……窓をしめれば……ほぼ終りね」等々			

	中央の方へあるき——見回す母と子	
259	見回して父親、右からミンチン、アメリア、父親、母、ラビニア ↓PAN・D	父　親「いやあ……結構、結構……ラビニア これで満足の筈だぞ」 ラビニア「ええ……パパ」
260	寝室より、花の残りをもって出てくる、セーラ、ベッキー ミンチンみて	ミンチン「セーラ、ラビニアさんの寝室は整ってますね」 セーラ「はい、院長先生」
261	満足そうに見回す母に、ラビニア突っつく 母親？　となりラビニアを見る ラビニア、あごをしゃくりセーラの方を目で見るように合図する—— 母親——セーラの方を見る、うなづき合点して 大仰に言う	母　親「あ、そうそう、もうひとつお願いが あるのを忘れておりましたわ」

262	ミンチンみて、愛想よく		ミンチン「なんで、ございましょう」
263	向きなおって、母親		母　親「実は、この子が専用のメイドが欲しいと申していますの」
264	ミンチン		ミンチン「まあ……」
265	父親、満足そうに見回しながら 左へFr・out		母　親「勿論費用はこちらで持ちますが」 ミンチン「よろしゅうございますわ。それで、メイドに心あたりは?……」
266	母親 正面みる		母　親「ええと……確か、セーラとか申しましたわね」
267	え……と、顔をあげるセーラ		
268	母親、ミンチンをみて ミンチン、ゆっくり手前みる		母　親「あの子を娘の専用メイドに廻して頂く訳には参りませんでしょうか」
269	パッとみて		ミンチン「（驚き）セーラを……」
270	愕然とみる セーラを見るベッキー		

271	ラビニア、冷笑して見返す		
271	みつめるセーラ		
272	母親、ニコニコと		母親「とても気のきく良い子だそうですね。 娘がどうしてもと申しましてね」
273	流石にうろたえるミンチン セーラをみる アメリア近づく ミンチン、アメリアをみる		アメリア「お、お姉様……」
274	窓辺にいた父親、ふりむく		
275	ミンチンとアメリア何か話している、ミンチン、母親をみて、 セーラをみる、父親in		
276	止まる父親		父親「なにか具合の悪い事でも……」
277	ミンチン、アメリアみる ミンチン、セーラみる おずおずと顔もどす		ミンチン「いえ……でも、あの子は―― その、聞いてみませんと」

278	ギラとにらみつける父		父親「なる程……本人にも聞いてみる必要がありますな」
279	ミンチン、肩をすくめる 父親——セーラの方へ		
280	ベストに手をかける父親 母と子、手前に来る（父のうしろ）		父親「君、どうかね うちの娘の専用メイドに廻って貰えると有難いのだがね」
281	父を見つめていたがうつむいていく		
282	心配げにセーラを見つめるベッキー		
283	PAN→		ミンチン「セ、セーラ……決めるのは、お前です……お前の気持ち次第でいいのです」
284	ミンチンを見つめていたが、口唇をかみうつ向くセーラ		

285	皮肉な笑いを浮べているラビニア	
286	セーラを見つめる一同	
287	うつむいていたセーラ、顔を上げて、ラビニアを見る ベッキー?! となってセーラを見つめる	
288	はっとなるラビニア	
289	セーラ、ラビニアよりミンチンの方へ目線をうつす　T・U ゆっくり、顔もどす（ラビニアの方へ） 頭を下げる	セーラ　「お引受け……致します」
290	微笑するラビニアと母親	
291	顔見合すミンチンとアメリア	
292	ベッキー、囁く	ベッキー「お嬢様……」

	セーラ、顔あげる、瞳が動く		セーラ　「もし……」
293	もどりかけた父ふりかえる ミンチン、母、ラビニア、!!と なって、セーラの方をみる		
294	セーラ、体を硬くして、瞳が動		セーラ　「ラビニアさんが、以前のクラスメー トを専属のメイドにしたいと考えてい るのでしたら」
295	キッとにらむミンチン		ミンチン「……セーラ!」
296	ラビニア、キッとなる		
297	母親、ぎょっとなり　T・B 母親、左をみる		母　「……なんですって……?!」
298	体向き直して		父　親　「院長先生、これは一体どういう事で す」
299	ミンチン、セーラより向き直る		ミンチン「……はあ、この子は父親をなくして」
300	父親、ミンチンよりセーラをみる		

301	セーラ、体がふるえている T・U（カット一杯）		ミンチン「私どもで親代りになっている生徒でございまして、それで、その……」
302	T・B ラビニアを見る父親		父　親「ふうむ……。……お前はそのようなこと何もいわなかったな」
303	ラビニア、見　げて		ラビニア「だって、パパ……」
304	ラビニアをにらみつけている父親――ラビニアを見つめる母親 ラビニア、父親を見上げている 父親――セーラを見る。――つづいて母親をセーラを見る		
304	今にも崩れそうなセーラ、必死に耐えている。肩が動く、瞳が動く　T・U フラッとよろめく、ベッキー支える		
305	厳しい顔の父親 ラビニアを見る		父　親「……判った」

306	はっとなるラビニア		
307	キッとなった父親、手を上げて ラビニアをうつ		
308	頬にビンタが飛ぶ		
309	床に倒れこむラビニア		
310	にらみつけている父親 はっとなり、息をのむ一同 ―間―　母親、見下ろしていた が走りひざをつく		母　親　「ラビニア！」
311	ラビニアの肩に手をかける母親 ジュウタンをかきむしるように 堅くにぎる拳のラビニア、肩を ふるわせている ラビニア、ワーッとなき出し、 母親のひざに伏す		母　親　「……ラビニア！」
312	母親のひざで泣くラビニア じっと見つめている一同		

	母親のひざをつよく握っていく ラビニア 一歩前に出る父親	父親「ラビニア……！ ……私は、お前の昔のクラスメートにもう少しで恥知らずな頼み事をしてしまう所だったぞ」
313	悲痛な表情の父親	
314	セーラ、瞳が動く、支えるベッキー	
315	嗚咽しているラビニアをにらんでいる父親 母親、振り返り、父親を見る	父親「院長先生……娘に専用メイドをつける必要はありません！」 母親「あなた！」
316	父親、怒鳴る	父親「いや構わん！」
317	父親、ミンチンをみて 父親、セーラみる、うなづくミンチン	父親「院長先生、娘の為にもこの話しはなかった事にして下さい」
318	ラビニア、母親のひざで泣きつづけている	

319	アメリア、ほっとした顔でミンチンを見る――うなづき目線をそらし、父親の方を見るミンチン		
320	階段のところで様子をうかがっていた一同、顔を見合せる――シーザー来て大きくあくびをする		
321	ベッキー、セーラを支える PAN→ セーラ瞳動く		
	O・L		
322	ミンチン学院に廻る夕方―― 赤い夕日		S・E （振鈴の音）
323	食事する一同、室内 PAN		
324	同ミンチンの食堂（夜） 豪華な食事、ローストビーフ		
325	ラビニア食事、黙々と		N 「ラビニアに対する、

326	323	324
同地下作業場、粗末なパン ベッキー、セーラをみる セーラ、皿をジッとみたまま	セーラ、ランプの照り返しあり	ランプの灯 F・O
私の答え方は決して素直とは言えませんでした。でも、あのラビニアのたくらみを避けるには、 あのように、言うしか私にはは方法がなかったのです」		

第二十話・おわり